

職業と教育

第一卷 第七号

内容もくじ

産業教育中央審議会案とわれわれの立場………(巻頭言)

わが校の職業家庭科における 教育内容の構成と教育計画 (特集)

新潟県中頸城郡大湊中学校

1. 教育内容編成の基本的な考え方
2. 基本的な各分野の設定
3. 教育内容の構成(職業コース・家庭コース)
4. 教育計画
5. 単元構成(一覧表)
6. 学習指導の方法(計画案例)

夏期研究協議会の成果………(20)

地域を科学化する職業教育………(22)

教育の僻地・東京………(23)

大達文相の政治活動………(24)

編集後記・研究会だより

1953

8・9

職業教育研究会

産業教育中央審議会と

われわれの立場

職業教育研究会

最近本研究会の存在が、實際家の間に大きく認められるようになり、その研究活動のすばらしい成果が、矢つぎ早に発表されるのに対して、一部にひがみや快よからず思ひ分子（主として既成勢力、または認識不足者）がいて、産業教育中央審議会と関係でもあるかのように解したり、そのお先棒をかついでいるように、公然非公然の席で発言していることであるが、全くもって迷惑千万といわざるを得ない。

わが職業教育研究会は、昭和二十三年発足以来、實際家を主軸として、一意研究を続けている民間研究団体であつて、昭和二十四年十二月、文部省の例の四類十二項目の仕事分類が出て、職業家庭科の教科が生れた時、十二月末の休みを利用して、東京に實際家百余名を集めて批判会を開いた。

昭和二十六年十二月、やつとのことで公にされた文部省の学習指導要領（職業・家庭科編）に対しては、廿七年度から三種の教科書が出て正式にこの教科が発足したのであるがその性格の規定と目標に対して機関誌や講習会で批判してきたことは、多くの人の知つて

いるところである。われわれは、莫然たる五百何十もの仕事の分類と、旧実業教育と啓発的経験から脱し切れないその観点の打破につとめてきた。そればかりではない。職業と家庭を離し、産業的な視点から基礎技術を通して人間形成に向うべき教科として、他教科より一般に軽視されているこの教科の「確立」に向つて啓蒙的役割を果してきたのである。

しかも昨年八月箱根において、實際家によつて三日二晩にわたつて行われた研究協議会は、われわれの見解の現場的確認となり、進んで実践的具体案作成の方向を示した。また十二月の協議会で研究コースを決定して以来毎土曜日の研究会を通じて、研究をおし進めると共に、単行本によつても、個人的にまたは研究会として、われわれの見解は発表されてきている。

本年三月九日に、産業教育中央審議会の総会で「中学校の職業・家庭科について」答申案がだされたが、それはわれわれの主張と一致する点が多いことが認められた。少くとも現行の学習指導要領から脱皮せんとして、点で賛意を表し、直ちに「資料」として「解説」

を附して、實際家に配布した。しかし原則的に賛意を表しただけで、具体的にはわれわれは必ずしも、それに追従するとは限らない。こゝろしたことから、本研究会と中央審議会がヒモつきでもあるように解したり、またお先棒をかついでいると見るならば、それは誤れるも甚しいものである。前記のような研究を経て、はじめて確信をもつて、是は是とし非は非として批判し得るのである。古い考えにとらわれ、間に合せの独善的理論の反省をしないで、頬かむりで通そうとしたり、少しも変らないなどと誤魔化したりするものにとつて、ボウハイとして實際家の中から起つてくる正しい批判の声や、眞実追求の見解を何とかしておさえないのであろう。

われわれは、現在文部省が進めている専門委員による中央審議会案の具体的方針がどうなるか知る由もないが、われわれ實際家の立場にたつものとしては、生きている生徒を前にして、それを悠々閑々として待つてはマはない。今夏の研究協議会で発表したように、教育内容の一試案はすでにできており、さらに細かく研究を進めていく方針である。文部省が良心的に、われわれの研究をとり上げることを要請するが、だからといって、別にその下請けをしているのではない。他の研究団体がより以上のものを作れば、いつでも賛意を表するであらう。別に弁明するほどのこともない明々白々のことであるが、中には相当わからず屋もいることであるから、ここにわれわれの立場を明かにしたのである。



わが校の職業家庭科における 教育内容の構成と教育計画

新潟県中頸域郡大瀧^{フケ}中学校

教育の実践にあたっての教育内容は、われわれが育てあげようとする人々の生活の現実から求められ、編成されるものである。現在文部省では、学習指導要領において、教育内容を構成する方法や着眼、即ち編成基準を指示している。しかしこれは、基準としての試案提示に過ぎない。教育内容は、学習指導要領によって制限せらるべきではないとわれわれは考える。かゝるわかりきったことが現実に於いては、指導要領を動かすべからざるものであると絶対視し、その基準に最も忠実に依ることが正しいとする思想が、大きく働いている。

現にわれわれも最近までこの教育内容観にとられ、職業・家庭科の教育内容の編成に於いても、現行の学習指導要領に示された通り、常にでき上って与えられたものとして、忠実にその実行に努力を続けて来た。しかし、学習指導要領の基準に従って教育計画を立て、教育を進める時に、つぎつぎと問題が起り、種々の困難に直面したのである。正しい産業教育の視点に立って、職業・家庭科の在り方について研究の眼を開いた時に、現行の学習指導要領に災いさ

れて、正しい方向を見失っていたことに気がついたのである。

こゝでわれわれは、その学習指導要領の批判や問題を述べる意図をもつものではない。中学校発足以来のわが校の職業家庭科の実際とその反省の上になつて、前にのべた職業家庭科の目的、及び性格の確認から再出発し、その教育内容の選定はどのようになされたか、産業教育の視点にたつ本校の職業家庭科の教育内容と編成の手續きは、どのようになされたかについて述べることにする。

一、教育内容編成の基本的な考え方

教育内容は、先ずそれぞれの地域社会の生活から編成されねばならないものである。土地の实情に応じて、教育内容には特質があり同じような教育内容であっても、それぞれの地域社会に適應した編成がなされなければならない。教育内容は土地の性格によって動的なものとして、将来の生活を考えて編成し、それを源として、社会生活を改造進展させる任務をおわされている。

さて、地域社会の要望は何かを明らかにすることによって、学習

させねばならない教育内容の性格が決定され、それぞれの土地の生活上の問題を解決して、これを発展向上させる方向に進んでいかなければならない。かゝる地域社会の現実をもとにして教育内容を編成するには、その現実についての客観的な探究が必要である。われわれも、かゝる観点から社会実態調査の結果、地域社会の生活を改造し向上させる問題を先ず検討したのである。

わが地域社会の一般的課題として次の四つの問題点をおさえ、それを大まかにまとめて「農村改良」という課題を把握した。そしてその課題に「応え得る有能な職業人の育成」という教育目標の観点から、教育内容の選定をなしたのである。

農村改良の方向

一、民主化——衣・食・住の改善

一、土地改良——耕地整理、交換分合、用排水

一、農業生産技術の近代化——農業の機械化、農業電化

一、農業経営の合理化

このような地域の課題から学習項目を再検討し（現学習指導要領の反省の立場）技術的系列の異なる仕事がつぎつぎでくる仕事中心の内容編成を反省し、各項目毎にまとまりのある、代表的な仕事をみっちりやっつて、技術の習得ができるようにとの観点から編成の方法を考えた。（昭和二十五年十二月）そしてその項目は、栽培・飼育・農産加工・測量・電気・機械・動力・簿記と設定したのである。

こゝに於いてわれわれは、一応混乱から脱却した満足を抱いたのであるが、実際には、農業関係の仕事や農村の生活課題だけを、直線的に狭い視野のもとに教育に持ち込んだ地域主義的偏向であつて

教育内容を規定する基本的視点としては、これだけでは不十分であると気づいたのである。

職業・家庭科の教育が、地域社会との関連に於て考えてゆかねばならないことは勿論であるが、その場合、必ず日本の国民生活、国民経済の改造、という視点にてらしなおしてみなければならぬのであつた。かゝる視点から地域の産業と生活をどう改善向上させていくか、そのためには、どういふ職業・家庭科の教育内容を選んだらよいか、という立場に立つことを忘れていたのである。

しからは教育内容編成の基本的視点はどこにおくか。われわれはそれを日本の国の一般的課題をとらえることによつてはじめて見出せると考えるのである。では国の一般的課題にてらして教育内容が選定されるという、その課題はいかに把握したらよいか、これが先ず問題となる。どのようにとらえるかということは人によつて異なり、明確なる把握は困難であらう。しかし、大まかにまとめて見ると、日本が国際的に平和な産業国として一人立ちすることであり、そこに輸出の振興、資源の開発、国民生活の合理化、等が課題として考えられる。そこでわれわれが、つぎの発展のために基本的視点となる国の一般的課題を、どのように把握したか、そのことについて一応述べる必要があるであらう。

(1) 現場の日本が経済自立達成のための困難点は、さしあたり

1、国土の減少（戦前に比し 五五％）

2、人口過剰（毎年一三〇万人の増加）の二点がある。

更に日本の経済は、貿易の依存度が非常に高い。即ち、綿花一〇〇％、羊毛一〇〇％、石油九〇％、塩七八％、重工業原料七〇％、鉄鉱石七〇％、食糧二〇％等の輸入があり、之に対して日本

産業の製品等の輸出量の比率は（生産量に対し）生糸一〇〇%、綿糸六五%、人絹糸八〇%、鋼材三五%というのがその実状である。

(2) 現在の日本産業の特性を検討して見るならば、つぎのような点が指摘できる。

- 1、日本人人口の過剰
- 2、原料資源の不足
- 3、農業と工業の相対的比重の不均衡と経営の不安定。
- 4、中小企業が非常に多く、日本企業の大部分を占めている。
- 5、貿易に対する依存度が高い。
- 6、資本の蓄積が非常に不足している。

(3) 経済復興計画に於ける自立経済の構想（昭和二四～二八年度五カ年計画）

- 1、産業構成は鉱工業に重点をおくこと。
 - 2、工業は重化学工業を推進する。
 - 3、労働生産性の向上と、産業構成の変化に即応した雇用配分の適正化に重点をおくこと。
 - 4、経済自立の達成という見地から、資本蓄積、輸出振興、に重点がおかれること。
 - 5、産業の近代化については、資本蓄積力に限界があるので、国際競争力を強化することが必要で、そのために機械、化学、繊維、等の諸工業の近代化に重点をおくこと。
- (4) 経済復興の目標達成に考えられる政策
- 1、金融政策による経済の正常化
 - 2、輸出の振興

- 3、電力、石炭の増産と交通手段の整備強化
- 4、食糧の増産と自給体制
- 5、災害の復旧と防除対策の確立

以上の問題から、現在及び将来の日本の民族的課題を、われわれなりに一応把握したのである。

職業・家庭科の教育内容は、単に専門技術学の立場や地域の課題からのみ選定されるのではなく、村やその町だけの狭い視野からの課題も、必ず国の一般的課題にてらして見てこそ、望ましい教育内容として設定され得ると思う。それはとりもなおさず、産業の要求に添うことともなり、地域社会の必要に応え得る教育内容ともなるのである。

二、基本的な各分野の設定

産業教育中央審議会案によれば、「学習内容は単にいろいろな分野の仕事や、多方面に経験させるというのではなく、前項と同様な観点に立ち、基本的な各分野に於ける代表的なものを選んで編成されなければならない」といつている。これは今までの「実生活に役立つ仕事」という、生徒の身近にある仕事を、あれこれと無系統的に選り出して経験学習させた欠点を脱却したことにおいて同感である。こゝに於いて、われわれが先にこれまでの反省をして項目を再検討し、教育計画の再編に努力してきたことに大いに自信を得たのである。

さてわれわれは基本的な各分野を、どのように決めたいかを検討することにしよう。われわれは職業・家庭科の「職業」を「現代および将来の日本の重要産業と関連する基礎的技術の習得と、それを通し

ての産業についての一般的理解をやしなり教科である」と規定して
 みるときに、この現代および将来の主要産業をなにおくかという
 ことは、われわれに於いてはつきりした結論を出し得ない現状であ
 る。しかし基本的な各分野を決めるためには、手続きとして、一応
 主要産業とは何かをおさえなくてはならない。そこで前述の国の一
 般的課題解決のために重要な産業として、つぎのようなものを選ん
 だのである。

- 農業・林業・水産業・鉱業・建設業・食品工業・紡績製糸業・
 木材及木製品製造業・化学工業・製鉄業製鋼業・機械製造業・電
 気業・電気機械器具製造業・自動車車輛船舶製造業・運輸業・通
 信業・卸売業小売業・金融業

以上の主要産業（これを社会的経済的知識の主要産業の項目とす
 る）の職務に必要ないろいろな産業技術のうち、いくつかの産業に
 共通する技術を考え、この産業の要求する基礎的技術を、教育的視
 点から再構成し、学校で学習可能なもので、出来る限り共通して多
 く含まれる技術のまとまりの分野、即ち基本分野を左の如く設定し
 た。

- 1 栽培、2 飼育、3 農産加工、4 製図、5 電気、6 機械、7 木工
 8 金工、9 原動機、10 測量、11 流通

（「家庭コース」の教育内容の選び方については省略する）

三、教育内容の構成

以上のように、基本的分野を設定し、これに基いて教育内容を構
 成するに当って、われわれは、つぎのような項目にわけて分類し
 た。

- 1、基礎的技術
 - 2、技術的知識
 - 3、生産技術的知識
 - 4、社会的経済的知識
- 関係知識

（一）基礎技術および技術的知識

先づ各基本分野の領域ごとに、そこにふくまれている基礎技術
 とそれに関する技術的知識を抽出して、つぎのような表にした。基
 礎技術は「要素作業」（オペレーション）の分析に基いて現わした。
 これは、本校において、ぜひ生徒に身につかせ理解させたいと考
 える最少限の技術内容で、三年間にはすべてをとり上げるより教育
 計画を立てることになっている。

なお本校では、選択教科の職業も全校生徒が必修することになっ
 ているので、必修的内容と選択の内容との区別をしていない。（選
 択時間の取扱については後述する。）

A、職業コース

領 域		項 目	基 礎 技 術	技 術 的 知 識	農 業
培 栽	管 理				
耕起のしかた 土のしかた 碎土のしかた うねの立てのしかた うねの切りかた 作条の切りかた	経営 管理	作付計画の立てかた 施肥設計の立てかた	品種と用途 うね巾と株間 技術と収量 いろいろな栽培法	土壌の性質と生育の関係 深耕と収量の関係 豆類と根粒菌 除草の効果	関連 産業

調整收穫	病虫害防除	施肥	本圃管理	苗木管理	
收穫期のしかた	薬剤の撒布のしかた	肥料の配合のしかた	摘果のしかた	移植のしかた	中和のしかた
坪刈り調査の原理	病害の発生原因	脱糞の理法	人工授粉の方法	苗木の選別の方法	

育 飼						
生産物	育成	繁殖	管理	飼養	管理	
毛乳のかりかた	保温のしかた	人工のしかた	消毒のしかた	給餌のしかた	飼料の計画	採取のしかた
ト毛の構造	産乳の原理	多産の外形	家畜の構造	飼料の配合	用途	貯蔵と温度

農 産 加 工										
仕上	乾燥	殺菌	濾過	蒸発	保温	蒸煮	添加	はやく 混合	準備	利用
仕上 のし かた	乾燥 のし かた	脱菌 のし かた	濾過 のし かた	濃縮 のし かた	保温 のし かた	蒸し かた	接菌 のし かた	配合 のし かた	水洗 のし かた	堆肥 の取 扱 い かた
加工 食品 の規 格	水分 と腐 敗 類	加熱 と微 生物	用具 の種 類	果実 とベ クチ ン の變 化	酵 素 と 溫 度	農 産 物 中 の 成 分	酵 母 類 の 生 理	用具 の種 類	用具 の種 類	厩 肥 の 生 産 量
加工 食品 の規 格	乾燥 法	加熱 と微 生物	用具 の種 類	果実 とベ クチ ン の變 化	酵 素 と 溫 度	農 産 物 中 の 成 分	酵 母 類 の 生 理	用具 の種 類	用具 の種 類	厩 肥 の 生 産 量
										工 業 食 品

電 氣		製 図			(工 加 ら わ)		機 械
電 線 の接 続	配 線	図 面	文 線 と字	製 図	製 造	準 備	器 具
電線 のつ なぎ 方	配線 のし 方	工作 圖の かき 方	線の かき 方	製 図の 使 い 方	製 図の 使 い 方	製 図の 使 い 方	製 図の 使 い 方
工熱 具的 性質 による 感電 と防 止法	電線 の種 類と 用途 規格 記号	基礎 的画 法 (工作 圖・展 開圖・ 組立 圖)	JIS 線の 種類 と用 途	製 図の 手 入 注 記号 の種 類	製 図の 手 入 注 記号 の種 類	製 図の 手 入 注 記号 の種 類	製 図の 手 入 注 記号 の種 類
業製 器製 具製	業製 器製 具製		業製 器製 具製	事設 務設			

機 動 原					
運 転	始 動	準 備	組 立	れ 手 入	
運転中の異状の発見 ベルトのかけかた 修理の仕方	始動の仕方 調子の調整 回駆の掃除 停止後の処置 洗滌と掃除の仕方	石油の取扱 部品の取り付け 發動機の据え方 給油タンクの方 い方の扱	組立の仕方 油の注油箇所 調整の仕方 整備の仕方 整備の仕方	部品の洗い方 さびの落とし方 取付けの仕方 鉄材と油の関係 部品の機能	用具の使いかた 十字レハチの使い 方 ヘッドマワシの使 方 ハブ玉廻しの使 方 クランク軸受廻し の使い方
燃点安全 燃料の種類と機能 火栓の種類と機能 管理の仕方 燃料調節のしかた	石油の揮発油 冷却水の意義 故障の部位とその原因 主要故障の部位	構造・機能 機械油の種類 機油の種類 原動機の種類	組立の方法 潤滑油の種類 機械の注油箇所 潤滑油の種類と用途	材料と油の関係 鉄材と油の關係 部品の機能	ニ、伝導用 ホ、リムとカム ヘ、リムとカム 機械の種類 ロ、直線運動 ハ、球面運動 ニ、ハ、球面運動 各部品の名称と機能 各材料の種類 分料の方法 機油の種類 用途
業製器機電 造具械氣				業製船車 造船輪	

(帳 記) 通 流				量 測	
印 刷	書 取 引	た きの 帳 簿	珠 算	方 の 測 平	
印刷の仕方 原紙のわりかた インクの種類と用法	文字の書きかた 通信文の種類 書類の作成方法 契約書・小切手・手形 書類作成器具 タイプライター	線の書きかた 数字の書きかた 訂正のしかた 繰越のしかた 帳簿の種類 帳簿の照合の方法 用具の種類と用途 原価と利潤	加法のしかた 減法のしかた 乗法のしかた 除法のしかた 珠算の原理 珠算と計算器	用板の使い方 平板の据え方 細部測量の仕方 視準部の使い方 修正の仕方 縮尺と修正法 支距法と斜距法 用具の種類 測具の種類 支距法と斜距法	部品の取付け取か え 整備保全のしかた 力の伝導 ベルトの種類と用途
	員公務	業金融	業小壳	業卸壳	業通信
					業建設

家庭経済		保育	
帳簿	家庭管理	保育	
方方小方予 方方方方方 ケ数字の イ線のか 引き方	方方方方 家務の計 画の立て た	方方方方 乳食、間 食のえ方 乳幼児の 取扱い	方方方方 薬品の取 あつかい 病室のと とのえ方 病人の扱 い方 応急の処 置法のし かた
収入支出の分類法 収入と各費目の支出の割合 家計簿の種類と利用	家務の計画と分担	方方方方 母乳の病 気の手当 法、予 防法 離乳食の 与え方、 消化の 方法	方方方方 季節と病 気の関係 看護用具 の種類と 機能 薬品の種 類保存 病人食と 栄養及禁 食 伝染病と 予防接種

(二) 社会的経済的知識、並びに生産技術知識

ここでとり上げる視点は、現在日本の産業社会や国民生活を改善向上するための職業生活や家庭生活を現状の分析から、将来の目標

理想に関するものなどである。主要産業についての社会的、経済的諸条件がその内容を構成する。即ち、その産業の現状と将来、特殊性、作業条件労働条件等、産業が国の一般的課題を解決するための問題点、またいかに改善していかなければならないかという理解を目的とする。

更に生産技術的知識としての項目を設け、その産業の工程や作業方式、生産管理についての知識、その産業の中心的技術的知識、即ち技術として重要だが学校での実習は不可能であって、知識として学習し理解させたいもの、作業環境の整備、危険予防等に関する知識である。生産技術的知識及び社会的経済的知識は各産業ごとにまとめ、ある作業単元と関連づけ、導入、又は終結として単元を構成し学習させるものである。勿論中には知識理解だけで編成される産業もある。

(編集部附記——つぎにその内容の詳細な構成表が入れてあったが、ページ数の関係で割愛した。御諒承を乞う。)

四、教育計画

(一) 教科のたて方

必修教科に於ては「職業」も「家庭」も男女共通に学習する「共通コース」と、男子は「職業」女子は「家庭」の比重を重くした「傾斜コース」との二つに分けて設定し時間配当する。

必修教科週四時間。選択教科週二時間。(第一表参照)

選択教科における職業家庭科は、本校の特色及び生徒の必要から全員が選択し必修として学習している。そこで、第一表の基本構造

に立脚して、各コースを学年毎にまとめた第二表の如き教科の構造をとる。

(二表) 教科の基本構造

教科	コース		領域	時間数	一人当り時間
	必修	選択			
必修	共通	男女共通の「職業」	男子の「職業」 女子の「家庭」	() ()	2
		男女共通の「家庭」			
必修	傾斜	男子の「職業」	女子の「家庭」	2	2
		女子の「家庭」			
選択	職業選択	職業選択	2	2	2
		家庭選択			

(二表) 学年別の構造

教科	学年		領域	時間数	一人当り時間
	必修	選択			
必修	一学年 (男女共学)	共通	共通共学「職業」 共通共学「家庭」	三 三	六
		傾斜	男子のみの「職業」 女子のみの「家庭」	六 六	
必修	二学年 (男女別学)	傾斜	男子のみの「職業」 女子のみの「家庭」	六 六	六
		共通	共通共学「職業」 共通共学「家庭」	三 三	
選択	三学年 (希望別)	職業選択	職業選択「職業」 職業選択「家庭」	六 六	六
		家庭選択	家庭選択「家庭」	六	

われわれはかゝる教科のたて方について、望ましい型であるとは

考えていない。あくまでも過渡的な現段階におけるあり方であつてつぎの発展への基盤であると考えらる。

共通コースの重要性を認識するとき、漸次傾斜コースを減じて共通コースを増して行くようにしたい。共通、傾斜、選択の三コースを学年毎に集中編成したこと、並びに選択教科のことについて種々問題を含み今後改善の余地もあると思つてゐる。

(二) 全体の計画について

1、職業、家庭科の学習は基礎的技術(基本的活動)の習得(経験)を通じて産業社会(国民生活)についての一般理解を養うことを終局のねらいとしている。各生徒は基本的な各分野に於ける基本技術、及び技術的知識を学ぶと同時に、日本の産業社会および国民生活についての社会的経済的意義を理解させるように計画する。

2、仕事は基礎技術と関連知識とをまとめる手段と考え、基本的各分野に於ける代表的なものを選択し、生徒の心身の発達、生活経験、又学校の実情に応じて、関連知識と充分に関係を保ち、各分野ごとにまとまりのある学習指導が出来るように計画する。

3、生産技術的知識や社会的経済的知識は、職業生活、国民生活についての問題点をみつめ、国の一般的課題の解決という視点からどのように改善していかなくてはならないか、ということを理解させる目標のもとに、主要産業ごとに、または各項目ごとに生産技術的知識と共に、出来るだけまとまりのあるものとして各単元に分散しないように計画し、単元の導入、または終結として仕事をまとめる役割をもつよう学習計画をたて、指導する。その場合仕事にできる限り関係のある産業(項目)を選ぶことは勿論である。

(三) 第一学年について

1、各生徒は「職業」「家庭」の共通部門について男女共学のもとに一学年に全部まとめ、原則として「基本的な各分野」にわたって学ぶように計画する。

2、「職業」と「家庭」の学習時間は一〇五と七〇時間とする。

3、職業生活、国民生活についての生産技術的知識並びに社会的経済的知識を深めるように、総時間の四分の一以上をあてゝ指導する。

(四) 第二学年について

1、各生徒は「共通コース」の基礎の上に設定された「傾斜コース」について男子は「職業」女子は「家庭」の比重を重くし、男子或は女子だけが学習するに適當な分野について重点的に学習するよう計画する。

2、男子のみの「職業」女子のみの「家庭」は各々二二〇時間とする。(傾斜コース二九年の合計)

3、職業生活、国民生活についての生産技術的知識並びに社会的経済的知識を深めるように総時間の四分の一以上をあてゝ指導する。

4、本校の特色として選択課目も必修とし、英語も職業家庭も全校生徒が学習している関係上、職業家庭科として一週六時間学習することが出来る。故に必修教科としての学習内容は、第二学年をもって一部の分野を除いて終了するよう計画する。

(五) 第三学年について

1、各生徒が「共通コース」並びに「傾斜コース」の基礎の上に

選択的な性格の視点より、各分野ごとに發展的な高度な地域的特色のある内容を学ぶように計画する。

2、職業生活、国民生活についての生産技術的知識並びに社会的経済的知識を深めるように指導し、社会的経済的知識を中心とする単元、職業指導の単元は九学年に於いて指導するようにする。総時間の四分の一以上をあてゝる。

(六) 選択の時間の取扱いについて

職業家庭科の選択の時間の取扱いについて述べる前に、一応われわれの選択課目に対する態度及び英語との関係についてふれる必要がある。

われわれは中学校の特色として選択課目の重要性を強く認識するものである。しかし、こゝに問題となることは現在の教科課程の編成である。即ち普通教育の段階にある中学校に於いて、いかに選択課目とはいえ、英語を選べば職業家庭科を選べないといふ点である。

1、広い視野に立って國際的有能な職業人の育成を目指すならば中学校教育を最終として直ちに職業に入る者に、英語の学習を欠いてよいものかどうかという問題。

2、進学する生徒について現実の問題として英語は重要である。しかし大部分高等学校の段階で終る本村の進学者の奥性からみて、また産業教育の立場からみて、必修の時間のみで充分であるかどうかという問題。

3、必修教科に於いてすでに偏向があり、基本的な各分野に互る基礎技術さえ身につけさせ得なかつた実状においては、更に選択教

科について検討させざるを得ない。

4、更に選択教科とは、生徒が自己の興味能力に応じて選択する教科であると考えらるなら彼等の興味についても考えてみなければならぬ。一二年の彼等の年令に於いて心理学的立場からも、また本校の職業興味調査からみても、自分の興味並に職業選択への自覚は不安定で、三年生に於てはじめて自覚が現れる程度である。(職業関心調査を参照)

5、職業家庭科の選択教科としての性格は、生徒の必要に応じて特定の職業への準備教育を行うことが出来るとしている。この生徒の必要に応ずる特定の職業の選定に妥当性があるかどうかという問題。

6、たしかに選択教科としての職業家庭科は、学校卒業後すぐに就職する生徒たちにとっては、職業の準備教育としての性格をもつことは望ましいことである。しかし学校の施設又は職員の現状からして大きな問題がある。

以上のいろ／＼の観点から検討した結果、われわれとしては本校の立場として、選択科目は職業家庭科と、英語とを共に学校選択の名に於いて全生徒に必修として職業家庭科二時間、英語四時間を学習させているのである。

さて職業家庭科の選択の時間の取り扱いについてであるが、審議会案に於ては、選択としてのこの教科の性格は、生徒の必要に応じて特定の職業への準備教育を行うことができると規定している。

しかし特定の職業の準備教育であるとしても、農業なら農業に集中した旧実業教育的な教育であつてはならないと考える。われ／＼はあくまでも基本的な各分野に亘るようにし、内容的には必修の時

間の發展的なものであつて、たゞそこに地域の要求、生徒の希望を強くとり入れた適切な内容をもつた教育計画をたてることが重要であると考えらる。

わが校に於ては、これを選択的コースとして三年生にまとめて、全員が学習するように計画がなされている。そこに稍々職業準備的な面の欠陥も考えられるが、これは他教科との関連や、特にクラブ活動に於ける指導との密接な関連に於いて遺憾のないように計画をする。

更に地域社会の要求に応ずる職業教育については、本校の特色として青年学級が盛んであり、卒業後必ず青年学級に入り、中学校の施設等を利用して職業教育がなされる関係上、中学校に期待するものはあくまでも産業の基礎教育を要望している。かゝる点からわれわれが以上のような特色ある教育計画を立てるに至つた所以でもある。

五、単元構成

基本的な技術の習得(基本的な活動の経験)を通じて、国民経済(国民生活)に対する一般的理解を養うという、職業家庭科の目的および性格にそつたための単元構成を考える時に、従来の本教科の指導に用いられた、生活経験単元は果して妥当かどうか、甚だ疑わしい。国民経済および国民生活の改善向上に役立つ、基礎的技術の習得を目指すならば、これまでの仕事のごま切れ単元では、技術学習の意味をなさない。われわれはできる限り一つの仕事教材としてまとめた、作業単元の型をもって構成したい。即ち生徒の発達段階に応じて、「仕事」(ジョブ)を中心に単元は仕組まれる。「仕事」

(ジョブ)は、それ自体は教育内容を構成する要素ではなく、基礎技術と関連知識とを統合する任務をもつものとする。別表は本校における単元構成表である。

(編纂子附記——単元構成のための基準表は割愛した。)

六、学習指導の方法

職業・家庭科の学習は技術的な仕事を中心になる、故に学習の展開をなすに当り学習形態は十分に検討せねばならない。

組織的、能率的な学習活動の展開は、周到なる準備と教具の整備が必要である。更に必要なことは職業分析の有効な活用であろう。即ち職業分析により「作業指導表」を作成し、技術学習の指導に万全を期することである。

われわれはフリックランドの「職業分析」が、そのまま活用されるところは考えない。われわれの幼稚な研究ながら、本校に於いては、生徒に最も活用し得るものと考えて実施している。

各分野毎に要素作業を分析したとはいうものの、それはオペレーションというよりも、「作業の指導要素」であって、相互の間にはかなり重複があったり、不明確な表現もある。しかし、これは今後の研究において改善する考えである。

われわれの学習指導計画案は、学習内容には「作業の指導要素」を作業順序に掲げ、学習活動の欄には、指導の段階(ステップ)を記入して案を作成している。この二項目の内容はそのまま作業順序であり、それに材料、工具設備、一般的指示を書き加えて「作業指導表」となる別表はその一例である。(同校教諭 林 勇 記)

「職業」単元構成一覽表

	第一 學 年				第二 學 年				第三 學 年			
	単 元	時 数	社会的、経済的知識	時 数	単 元	時 数	社会的、経済的知識	時 数	単 元	時 数	社会的、経済的知識	時 数
職 培	まめの栽培	12	農 業	4	さつまいもと トイロの栽培	39	農 業	4	稻の栽培	39	農 業	4
飼 育	うさぎの飼育	10	農 業(牧畜業)	2	山羊、豚の飼育	20	農 業	3	鶏の飼育	18	農 業	3
産 加 工					さつまいもと 大豆の加工	12	食品工業	2	麵の製造と利用	12	食品工業	2
					小麦粉の加工	8	食品工業	2	果物の加工	8	食品工業	2
					わら麵の製造	3			わら麵の製造	3		

製 機 電 原 測	図 械 氣 動 機 量	基本製図	12	建設業(設計)	2	機械製図	5	造船業	2				
						自転車の分解	14	自動車、車輛製造業	3	時計の分解	9	機械器具製造業(精密、光学機械)	2
		配線	10	電気業	5					3球ラジオの作製	14	電気器具製造業	3
						校庭の測量	9	建設業(土木業)	2	原動機の操作	5	機械器具製造業(原動機)	2
木 金	工 工	ごみとりの作製	15	林業	4	電気スタンドの製作	15	機械器具製造業(電気器具)	4	本箱の製作	15	建設業(建築)	3
		ロトの作製	13	製鉄製鋼業	5	筆立を作る	12	鋳業	4	ちりとりの作製	13	機械器具製造業	4
流 通		小遣帳をつける	7	運輸業	4	珠算家計簿 謄写印刷	12	金融業	3	通信文の作成	5	通信業	5
							6 8	公務員	3	帳簿のかきかた	20	卸売業小売業	5
社 会 的 経 済 的								労働衛生	6			水産業に働く人々	4
								作業の能率と安全	6			労働者のための法規	6
												進路指導	4
「家庭」的						すまいの工夫	7	雪国のすまい	1	家庭の経済	8	家庭と社会	2
		79		105時間	26		163	210時間	47		161	210時間	49

「家庭」単元構成一覽表

	第一學年				第二學年				第三學年			
	単元	時数	社会的、経済的知識	時数	単元	時数	社会的、経済的知識	時数	単元	時数	社会的、経済的知識	時数
衣	衣類の手入れ	17	各自の衣服計画	3	ひとえ長着の製作	28	和服生活の現状	2	仕事着	28	仕事と作業服	2
	ミシンの操作	13	機械と能率	2	衣服の整理	7	クリーニング業	1	幼児服	24	幼児の衣生活	2
	パンツの製作	14	私たちの家庭	4	ブラウスとスカート	28	洋服生活の現状	2	ジャケット	27	これからの衣生活	3
					クッションの製作	13	セニイ工業に働く人達	2	あみ物と染色	18	和服生活の改善	2
毛糸のチョッキ	15							小裁あわせ	28			
食	一日の食事	8	食生活の現状	3	春の調理	10			お祝料理	8	行事と食生活	2
	ライスカレー	8	良い食事	2	夏の調理	9	栄養と病氣	1	正月料理	9	これからの食生活、最近の燃料事情	3
	お茶とおやつ	6			秋の調理	10	農繁期と食生活	2				
					冬の調理	9	雪国と食生活	9				
住	整理、せいとん	8	生活と作法	3	すまいの工夫	7	雪国のすまい	1	住の設計	7	これからのすまい	3
家庭経済					家計簿	15	金融業	3	家庭の経済	18	家庭と社会	2
衛生保育	弟妹の世話	12	幼児に関する社会施設	2	あたたかい看護	13	医療施設とこれにたづさわる人	2	乳児の栄養	8	乳児に関する社会施設	2
							休養とレクリエーション	2	乳幼児の病氣と予防	3	家庭看護	2
「職業」的			105時間		電気スタンドの製作	12	機械器具製造業(電気器具)	2	食品加工	7	食品工業に働く人達	3
				アイロンの分解と修理	5	農産加工と農家の経済生活	2					
				野草の加工	8							

第一学年(男女共通)

— 学習指導計画実例 —

教師の指導	評 価	資 料・用 具	連絡教科
1. 金属製品とわれわれの生活 2. 漏斗の種類と用途 3. 設計及製作工程 材料	予備テスト	授業計画 指導票 材料工具 工程図 示範物	
1. 製図一般 2. 製図用具の使用法 3. 製図規則 直円錐体の展開図法 4. I15	用具のとりあつかいは 正確か 計画的か	製図用具 参考図 示範物	数 学 図 工
1. 金属の種類と性質 2. 材料表の作り方 3. 購入上の注意	正 確 か 能率的か	材 料 表	
1. 経済的な板どりのし方 3. 金属の特性と用途	板どり 計画的か 能率的か	定 規 コンパス 鉛 筆	
1. ケガキの方法と順序 2. 用具の種類と用途 3. 作業の安全	けがき 正 確 か ていねいか	定 規 ケガキ針 ケガキ・コンパス ケガキ・ポンチ ハンマ	
1. 切断の種類と方法 3. 鋏の使用法手入法 4. 危険防止	切 断 計画的か 正 確 か	金 切 鋏 直双、抑双 タガネ	
1. 工具の種類と用途 2. 金属の性質 3. ひずみとりの方法	ひずみとり 能率的か ていねいか	金 し き 木 槌	
1. 溶剤の種類と用途 2. クと板金との関係 3. はんだづけの方法 4. はんだごての使い方 5. 危険防止 6. 火災予防	はんだづけ 計画的か 正 確 か 能率的か	ハンダゴテ ホド・コンロ 溶剤の入れもの ヤットコ ハンダ 溶 剤	理 科
1. 塗料の種類 2. 塗装の方法 3. 用具と種類 4. 手入法、保存法	塗 装 計画的か 能率的か ていねいか	塗 料 皿 刷 毛 サンドペーパー シンナー 布	
1. 評価のし方 2. 全体評価、進歩表	評 価 表 進 度 表	実習反省記録	
1. その産業の将来と特徴 2. 基礎産業としての重要性 3. 特 色 大資本、独占事業 製鉄原料資源 貿易依存 4. 生産工程作業内容 製鉄→コークス製造工程 煩結鉄製造工程 製鉄工程 製 鋼 混鉄炉工程 製鉄炉工程 造塊工程 5. 生産技術の中心技術 6. 労働条件、職業師	工場見学及び作業実践 を通じて、日本の重要 産業について理解した か 製鉄、製鋼業の重要性 を理解したか 問題点を見出したか ペーパーテスト	参考資料 工場見学 スライド 職業科事典4巻 製鉄所で働く人々	理 科 地下資源

単元(金工) 口トの製作

時	段階	学習内容	学習活動
13 時	導入	(1) 学習計画をたてる	1. 学習計画の話しあいをする 2. 学習目標を決定する、学習計画表を作る 3. 漏斗の工作方法をしらべる 4. 口の種類についてしらべる 5. 指導票をよむ
	展開	(2) 漏斗を作る 1. 工作図を画く	1. 教師の製図について説明をきく 2. 構造、大きさ、形状、材料等について話しあう 3. スケールをきめる 4. 図面をきめる
		2. 材料を準備する	1. 材料表を作る 2. 材質を決定する 3. 材料を購入する
		3. 板どりをする	1. 1枚の板金から多くの製品がとれるように工夫する 2. 出来るだけ鉄を入れてもよいようしかも経済的に考えて位置をきめる 3. 工作図により必要な板金を切りとる
		4. けがきをする	1. ケガキ針、ケガキコンパスをきめる 2. 板どりの鉄板にハクボクをぬる 3. ケガキ針は定規に正しくあて引く方向において引く 4. 円は中心にボンチで穴をあけ、これを支点にケガキコンパスで円を画く
		5. 切断する	1. 金切鉄をきめる 2. ケガキ通りの線を金切鉄で切る 3. 直線切りと曲線切りを区別 4. 鉄の先端まで使ってはさみ切らない
		6. ひずみとり	1. 板金を金敷の上におく 2. 切り口を槌で打ってならす
		7. はんだづけをする	1. ホドに火をおこす、又電気ゴテに電気を通す 2. 接合の部分を紙ヤスリによつてみがく 3. 塩化アエン溶剤を接合の部分に木のはしでつける 4. ハンダゴテを溶剤にちよつとつける 5. ハンダゴテにハンダローをつける 6. ハンダゴテを接合部にあてハンダを流し込む 7. ハンダづけしたあとを弱塩酸にしたした布でふく 8. ハンダのもり上りをヤスリでけずる
		8. 塗装をする	1. 表面のサビや油類をシンナで洗う 2. 表面をサンドペーパーでかるく磨く 3. ラッカを刷毛で下ぬりする(30分乾燥) 4. ラッカで上ぬりする(裏面をぬり表面はあとでぬる)
	終結	9. 作業学習の整理	1. 学習の結果をはなしあう 2. 自己評価、実習反省、記録
5 時(計 18 時)	社会的 経済的 知識 (製鉄・製鋼業)	(3) 1. 製鉄、製鋼業の重要性	1. 日本の製鉄、製鋼業の特徴と将来の動向について調べて話しあう、(スライドを見て) 2. 基礎産業として重要なこと 3. 他の産業との関係を討論する
		2. 特色	1. 大資本である特質 2. 外国貿易の依存性、原料資源関係について先生の話をしきく
		3. 作業工程、職務内容	1. 参考書で作業工程、作業内容を調査する
		4. 生産技術上の問題点、改善点	1. 教師のお話を中心に討論する
		5. 労働条件	1. 参考書及参考スライド中心に討論する
		6. まとめ	直江津日菅工場見学

夏期研究協議会の成果

八月・九会場終了す

本誌七月号で予告した通り本研究会主催の夏期研究協議会は、八月中に左記の九会場で開催された。

▽福島県会場

八月七日 飯坂温泉吾妻荘

▽宮城県会場

八月八日 塩釜市第一中学校(第一会場)

八月九日 松島湾桂島海水館(第二会場)

▽栃木県会場

八月十一日 安蘇郡田沼中学校

▽山梨県会場

八月十二日 甲府市西中学校

▽静岡県東部会場

八月十三日 庵原郡蒲原中学校

▽静岡県西部会場

八月十四日 浜松市中部中学校

▽神奈川県会場

八月十五日 小田原市第二中学校

八月二十日 中頸城郡大ブケ中学校

▽大分県会場

八月二十日 大分市王子中学校

残された鳥取県東伯中学校での開催は、九月二十八日となっている。

以上九会場でも多かつた浜松市の五十名以外は、二十四五名から三十名の参加者があって、研究協議会としては、最も適当な人数であり、県下のエキスパートの外、栃木県では群馬県、茨城県からの参加があり、甲府には長野県から、浜松には愛知県、京都府からまた新潟県には富山県から、大分には福岡県からという風に、熱心家が挙って参加された。従って、その質問討議も極めて活ばつて、殆

んど全員が発言されたように見うけられた。

本研究会では、この研究協議会に備えて、教育内容研究部を特設して研究し、基本的な方針と教育内容の具体案を作成、一部分を会誌七月号に発表し残された部分をプリントにして送付または持参して、研究資料とした。

実はわが職業教育研究会が、現在の学習指導要領にあき足らず、産業教育の一環としての職業家庭科に、確乎たる性格を打ち出すための具体的内容を示そうとしたのは、昨年の八月十八日から三日間、箱根で開催した第一回研究協議会に始まる。以来毎週土曜の定例研究会その他によって研究を進め、昨年十二月二十六、七日の東京若葉荘における第二回研究協議会で研究コースを決定。本年三月二十七、八日の箱根における家庭科研究協議会にひきつづいて、今回はその第四回目の協議会である。

その間一貫して、学習指導要領に示された性格と目標を改めて、産業における基礎技術に重点をおいた職業科の教科としての確立、並びに家庭科の分離を主張して来たのである。従って、今回の研究協議会に提出した試案は、産業教育中央審議会答申案に追随して

生れたものではなく、本研究会独自の批判と研究によって積み上げられてきたものである。

しかも、その内容は、第一次試案であって全く未完成であり、現場の実験家によって、大いに検討修正されるよう希望して持たれたのが、十会場にわたる研究協議会の目的であった。(ある会場で本研究会の性格や協議会の目的についての質問もあったので、ここに改めて記しておく。)

さて開いて見た結果は、非常に多くの問題が提議され、現場の感覚からの鋭い批判が加えられたと共に、参加した人たちにとってもお互いの協議の間に、得られたものが少くなかったようである。

今までの手のつけようもなく悩んでいた方、学習指導要領によらねばならぬといわれてもどうしてよいかわからぬ人、やって見たがうまく進まなかったと訴える方、すっきりした本教科の性格がつかまされなかった方。——いづれまたかわるならそれまで待っている、文部省から出たらそれによってやろ——などという人たちを除いては、いづれも一騎当千の人たちで、困難なこの教科にとっ組んで苦

しんでいる人たちの声がきかれたことは、こちらから参加したものにとっても、大いに教えられる所が少くなかった。

○ 討議の内容については、思い思いに意見を出されたのであり、一つの結論を得るのが目的ではなかったもので、ここにまとめて記すことは困難であるが、多くの意見を総合して、共通的と思われるものを、つぎに若干あげて見よう。

(1) 案は産業教育の視点から、今までの多くの仕事ではなく、非常にすっきりとして系統的になっていく点で賛意を表する。(個々には問題あり)

(2) ただこれを実践にうつす場合、指導者の実力、設備不足などの点から極めて困難のように思う。

(3) 他教科とダブっている点を調整しなくてはならぬと思う。また選択時間の規定を改正するよう文部当局に要請したい。

(4) 商業関係の問題が重視されながら、案の上ではあまり出ていない。(研究不足)

(5) 家庭コースをわけけることは賛成であるが旧家庭科のようになつては困る。この案では、そうでなく国民生活の改善の立場から

社会的経済的理解に主目的をおいているのはよい。しかし仕事のわけ方がその方針にそわないように感じられる。(研究不足)

等々その他にも数多くの意見が述べられた。本研究会ではそれらの意見を吟味して、更によりよい案にねり上げていく方針である。

なお教育計画と学習指導の面については、本研究会でも研究を重ねる方針であるが、基本的な方針把握の上に、この面こそ、地域に即した現場での実践を通して研究を進めて頂きたいと思う。勿論そこには多くの困難が横わっている。それを一歩々々切り開いて行く処に、本教科の意義のあることを知って頂きたいと思う。

○ 最後に会場には多大のお世話になり、司会その他万般のお世話下されし方々へは、厚く感謝の意を表すると共に、盛夏をものともせず積極的に参加して下さった各位に、心からの敬意を表し、今後の御進捗をお祈りする。

寄贈資料

清流(学校植林特集号)

栃木県那須郡

学校要覽

武茂中学校

浦戸中学校

宮城県塩釜市

地域を科学化する職業教育

松島にある浦戸中学校

八月八日、松島湾にある桂島から小舟に乗った研究協議会員一同は、塩釜市教育委員会小野指導主事と、同市立浦戸中学校浅岡教諭の案内で、湾の中を進んで行った。

点々とある島の中で割合大きい野々島というのに、浦戸中学校の赤い建物が松の緑の間からのぞいている。

「まるで保養所みたいです」

と笑いながら浅岡教諭はいう。舟の通るそばには、種ガキがつく施設がなされており、松島湾の主産物として、年額三億円をかせぐというアメリカ向け種ガキの輸出について委しい説明をせらる。浅岡教諭は、まるで手にとるように、あたりの島の状態や生活を、舟のエンジンの伴奏の中で説明してくれた。

やがて舟は野々島に着いた。一同は、本年三月できたばかりという、かわいい小さな浦戸中学校をめざして上って行った。

この中学校は、校地七百坪、校舎一一四坪

余、普通教室三。野々島の小高い丘に建てられている。本年三月竣工、四月からここで授業が行われたという。生徒数総計一二四名で桂島、野々島、寒風沢、朴島の四島六部落から舟で通っているのである。現在は塩釜市に所属している。

松島湾には、この四島を中心に無数の島があるわけである。

○ 一同の案内された教室へは、浅岡教諭と女の先生によって、つぎつぎと幾十ものアルコールづけにしたものが並べられ、学校要覧が配布されて、浅岡教諭から学校の状態、職業科として行っている水産(種ガキ)についての説明があった。

現在学校の生徒によって、種ガキ植付の実習も行われているが、それよりも私たちの心うたれたことは、この教科を通じて、地域の科学的啓もうが行われていることである。

そこに並べられたアルコールづけは、生徒の手によって採集されたアカニシその他の種ガキの外敵であつて、アメリカに送られた種ガキにそれが交つていると、全部落の生産品が輸入禁止になる。そこで村では、金を出して生徒にとらせていて、教師の指導によって卵や成虫を生徒がとり、それをビンづめにして研究を進めている。

○ また種ガキを下す時期、種ガキの卵のつく研究などを学校が行つて、それを顕微鏡で拡大したものをスライドに写し、部落へ持ち廻つた。三十年來、百合の花が咲いた頃種ガキを下せばよいといった、ただ経験だけにたよつてきた漁夫たちは、大きな驚きの眼を見はつたという。

○ 以来学校へは、PTAの会合だけではなく、常に父兄が来訪し、いろいろ質問して、漁夫が漸次科学的に目ざめてきつたつあるというのである。

これこそが中学校の生産教育である。現在この学校に、職・家科の完全な姿を求めるところは無理である。水産を通じて行われつつある地域の産業の科学化への方向に、われわれは深い感銘をうけたのであった。

地方から東京の教育視察に来られる方が少くない。どこを見たらよいかとたづねられる方もある。その度に私は情ない気持ちにさせられる。紹介したいような学校が見当らないからである。

或は私の認識不足かも知れない。認識不足であつてほしいものである。だが、私の知る限りでは、それがないのである。殊に職業・家庭科に至つては、全くなっていないと極言したくなる。かえつて地方によい学校が見られるからかも知れない。ともかく一般的にいつて、非常に熱意を欠いている。従つて研究も進んでいないというのが当らずとも遠からずではなからうか。

○ 戦前には、東京にも相当見るべき学校があつたし、新思潮をとり入れた実践が行われて、地方から上京した人に刺激になつた点もあつたが、今日では、東京は全く教育の僻地である。普通りの東京の学校視察などは止めた方がよい。僻地へ来て何を見ようとするのだらうか。もつともその僻地ぶりを見るのも研究にはなるが……。

東京を教育の僻地にした原因は、勿論戦

争である。中心都市の大方の学校は戦災にあい、あわただしくできた中学校は、小学校に間借りをしていたし、現在独立校舎のないものが相当ある。小学校の方も、現在二部教授が続けられている所があり、教室不足をなげいている。(現在の予算では、年々建築を進めて、昭和三十年度でやつと二部教授が解消することである)

これによつてもわかるように、東京の復興は、教育をおきざりにして、華やかなネ

教育の僻地・東京

オンとジャズと騒音、それらを入れるキヤパレー、映画館、東京温泉の復興であつた。民族をドラクさせる植民地日本の中心都市としての東京の復興であつた。

○ そしてその教育はどうであつたか。

新田景気で上級学校を目ざす教育に熱心な(?)父兄に要求されての入学準備、民主教育による人間形成がきいてあきれる。体裁のよい空念仏にすぎない。それを当局は改めようともしない。指導部や学校当事者も齒が立たない。教員も教育の本質なぞ

いつていられない。良心のマヒが処世法の第一ページである。あけても暮れてもアチエーブメントを生徒たちはくりかえしている。というのがいいすぎなら、最も重点がおかれている。アチエーブメントで人間形成ができたという教育原理を私はきいたことがない。

○ 将来の日本を背おうて立つ人間が、そこから生れるとは、恐らく考えてはいまい。それなら、何を教育の目標としているのであらうか。全くその日ぐらしの一語につきるのじゃないか。眞面目に教育を考えていたのでは、東京の教員はつとまらない、とある東京都の教員はいつた。正にその通りである。その通りであるが故に、東京は教育の最もおくれた僻地なのである。

○ その点を地方都市が眞似している。それをまねるために上京されるのであらうか。となると、恐るべきことである。どうせ見る所はないが、東京がどんなに変わったかそれにオッタマゲルつもりなら別問題である。オッタマゲテどうせこうなるだらうなどと頭を下げたとしたら、教育の最も僻地に頭を下げたも同様であることを知らねばならない。(池田種生)

大達文相の 政治活動

— 教育時評 —

大達文相が、自由党を背景として、文部省に乗り出したことは、別に教育をよくして、子供や教師の味方になろうとしたことでないことは、いうまでもない。ねらいは、吉田内閣で何代もの文相が意図して来た、日教組の政治活動をどうして封じることかということが中心課題であつたやうである。社会の情勢の變化とにらみ合せて、崩をねらう猫のように、それをねらつて来たのである。

恐らく岡野前文相(現通産相)との間に、暗黙の間になにか、或は公然とその事務だけは、一本の線で引きつがれて来たであらう。

機会は来た。MSA協定が進み、再軍備への保守政治勢力の地盤が固つて、民主主義をふみにじる反動化への道が強化されると見るや、文部省内の人事を入れかえ、山口県の「日記事件」

をきつかけに、果然攻勢に乗り出したのである。「日記事件」の内容に接しない筆者ではあるが、それが教組の政治活動禁止を主張しなくてはならぬ程のもは、または直接関係あるようには考えられない。多分二三年前なら、その辺にころがつていた一教師の行きすぎ位に見られるものではないかと思う。

ところが機会を待つているものには、それが大きく写るのである。かつての侵略国が機会をねらう時、日常さはんの事件をきつかけに、いいがかりをつけて戦争にまで発展させた例は歴史の上にあまりに多い。(封建時代に代官が人民をおさえる手もそれであつた。)

以上の前提は、決して筆者の主観ではない。九月十四日付の毎日新聞第二面で大きく扱はれている記事を参照されたい。

そこで、問題は、この大達文相の態度をどう見るかである。筆者は、大達文相こそ「日記事件」以上の政治活動をしていると見る。それに右へならえする文部省主脳部は全部大達政党的配下に外ならない。実は、教師に政治活動を禁止すること自体

が、今日では政治活動なのである。

若し彼のいうように、政治活動がそれほど教育上害悪とするならば、まづ自らが政治活動をやめなくてはならない。教師などが故に政治活動を禁じた、明治三十三年発布の治安警察法時代ならともかく、今日いかなる職務に従事するものといえども、政治に参与しその活動が禁止されるべきことでないことは、民主主義の原則や新憲法を持ち出すまでもなく、人類共通の常識である。

大達文相がいかに戦争中に**反動的役割**を果たしたベテランといえ、治警法(第五條第五項)教師、僧侶、兵士、女子を禁治産者と共に政治活動を禁止)時代にかえそうというものではあるまい。さし当り、自由党に對決する日教組を弱体化したい。(自由党を支持するなら、政治活動大いによろしい!)そうはいえないので、教育者の中立性(理論的根拠薄弱)を持ち出して来たところを見るより外はない。

ところがここに奇怪なのはこれに呼応する教師のあることである。下関教組が支部員九百七十名中、約九割の八百名が、日

教組から脱退、その中心が校長であることや(九月十日毎日新聞)大達文相の政治活動である中立論に、手ばなしで賛成するものが少くないということである。

教師と農民は人がよいというのか、近視眼が多いというのか、いつもこの手でやられているのである。

思つても見たまえ、日教組の組織がなかつた時代を。それは生活的にみじめであつたばかりではなく、精神的に非人間的に扱われていた事実が数知れずあつた。現在もそれは残され、逆コースに従つてより強化されようとしてゐる。弱きもの唯一の道は団結であるし、反對に支配するものには分業が唯一のやり所である。下関では校長が中心に分裂のお先棒をかついでいるではないか。中には仕方なくそれに追従したものもあるやう。そんな組合が強力である筈はない。おれはどうせ腰かけ教員だからどうでもよいんだと捨ててかかつてゐる者があるとすれば、それでは一個の人間としてあまりに情ないではないか、しかもそれが君自身の小さい問題でないことを知らねばならぬ。(中山生)

大漢プランの 掲載について

(編集後記)

▽八月は研究協議会のため会誌は休刊し、ここに八・九月合併号としておく。

▽本号の大部分を大ブケ中学校のプランによって埋めた。それは、われわれが研究協議会で提示した方針が、この中に全面的にとり入れられ、実践されようとしているからである。研究会が単なる机上プランに終ることを常に警戒しているのであるが、同校では、渡辺校長を中心に、このむずかしい課題にとり組み、旧套を脱して勇敢に全校をあげて、その実践にのり出しているのである。

▽その上地域の支持を得て、特別教室や設備が完備し来る十月四日には、第一次研究発表が行われることになっている。本稿の執筆者林勇氏は、東京大学における一カ年の内地留学を経て、本校の職業家庭科の中心となつて、熱心に研究を進めている。同校の将来にわれわれは大きな期待をよせている。(大ブケ中学校は国鉄直江津駅の一つ先の黒井駅から支線で百間町下車)

▽他の地域にも、これと同様の実践が、ポツ然として起りつつあり、今後できるだけ誌上に掲載していきたい。理論が理論にだけ終わらないで、実践されて始めて価値が生ずる。その意味で、文部省も教育学者も実践の場と結びつくように心がけ、実践家の声を第一に尊重しなくてはならない。また実践家は確信をもって発言し得るよう成長してほしい。

▽次号は理論的なものを主にして、十月上旬発行の予定である。最近会費納入の方が急増してきている。できるだけ前納して頂きたい。

研究会だより

▽八月全国九カ所の研究協議会で多忙を極めた。そのため会誌もあとまわしになり、定例研究会も休止するのやむなきに至った。

▽九月に入つて、直ちに活動を開始、会誌八・九月号の編集、今後の運営について打合せ、原則として毎月第一・第三の土曜を定例の公開研究会とし、他の土曜日は本部内の研究会とする。地方から上京の方は、この日午後三時頃お出で下されば好都合です。

▽研究協議会での検討に基いて、教育内容全般にわたつて、更に詳細に分析し、分野の指導内容をこまかく研究していく。これには、地方の有能な実践家にも大いに参画してもらつてもよい。

▽本研究会のこの独自の着実な歩みを理解せず、中央審議会や文部省と結びつけて、それに追随しているような言を吐く者があるとのことであるが、それらは本誌巻頭言を熟読するようすすめる。

▽本誌七月号に発表の第一次試案の前文の一部抜粋、その続きともいふべき、協議会に用いたプリントは、少々残っている。不完全な点が多いので、広く配布したくないが参考資料として希望の方は、八円切手同封申込みの方にお送りする。

昭和28年8月30日印刷(定価一部二千円)
昭和28年9月5日発行(年額二百四十円)

編集兼 池田種生
発行者

東京都中央区銀座東五ノ五

発行所 職業教育研究会

電話銀座部〇〇八二番
振替東京七七一七六番

日本図書館協会選定・職業教育研究会推薦

再 版

近 刊

教育原理

産業教育の
理解のために

清原道壽 著

序論—産業教育の系譜—

第一章 資本主義形成期における労働教育

第二章 二十世紀における労働教育

第三章 戦前の日本教育

本 論

第一章 日本教育のめざす人間像

第二章 産業教育と各教科

第三章 教育を行う場の構成

第四章 教育における人間関係

第五章 学習指導の原理と方法

第六章 生活指導の組織と方法

読書の秋におくる立川の教育図書

前篇 職業指導の現状

第一章 職業指導の計画と実践

第二章 小学校と高等学校の職業指導

第三章 中学校の職業指導

第四章 農村青少年職業指導の課題

後篇 職業指導の問題点

第一章 職業指導とはなにか

第二章 わが国職業指導の史的考察

第三章 職業指導の各分野における問題

第四章 職業指導計画—G・プログラム

職業指導新論

後藤豊治
小野禎一 著

{ A—5判 }
上製美装
280頁

定 価 300 円
送 料 40 円

定 価 300 円
送 料 40 円

{ A—5判 }
上製美装
280頁

東京都中央区
銀座東五ノ五

立川図書株式会社

振替番号
東京 83314